

長瀨と秩父の地質

長瀨は日本地質学の発祥の地

宮沢賢治（昭和6年東北砕石工場技）や
ナウマンも巡検に訪れた。

（ナウマンはドイツ人地質学者 フォッサ
マグナの発見者 1886年 明治19 論文で
命名した。）

新潟県糸魚川～静岡の大地溝帯のこと。

長瀨周辺の岩石は、三波川変成帯と言
われ年代は、後期古生代から中生代
ジュラ紀に及ぶと推定されている。

長瀨にあるポットホール（直径約2m）



これは長瀨にある石碑



ポットホールは広瀬川鳳鳴四十八滝の直ぐ
上流と名取川秋保大滝の直ぐ上流でも見ら
れる。

長瀨の結晶片岩



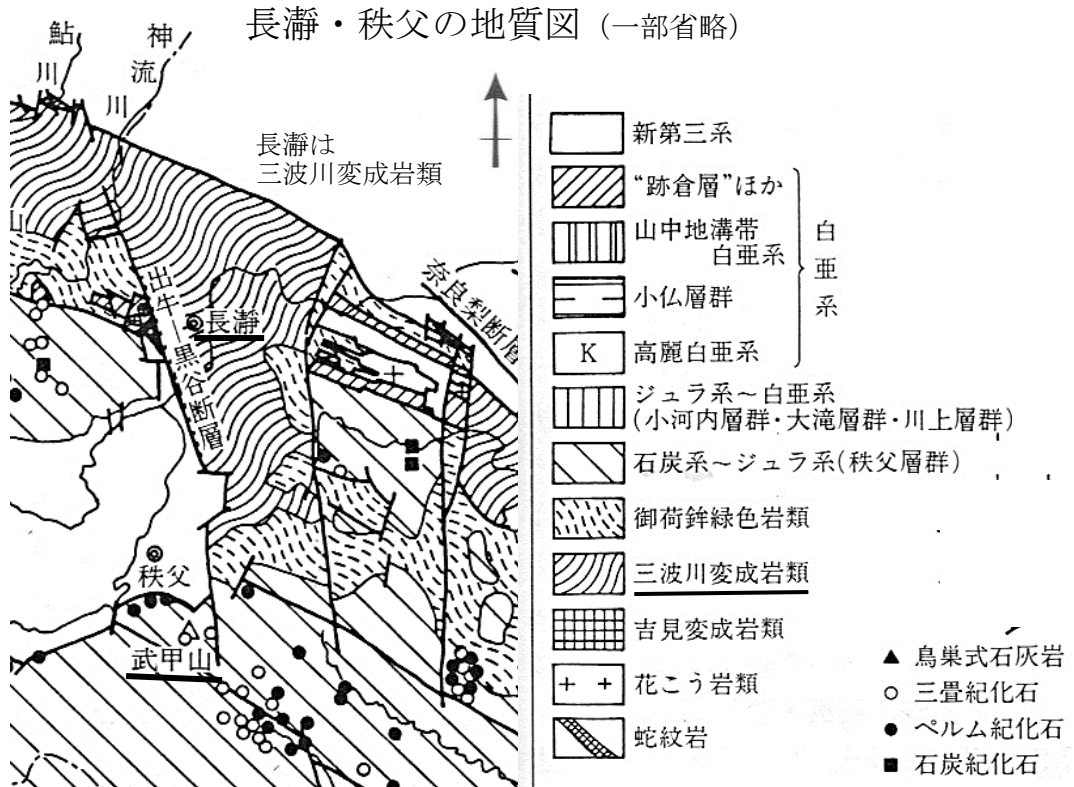
節理・片理を見る。
天然記念物である。



長瀨駅から石畳周辺の案内図（案内プリントの一部に加筆）



長瀨・秩父の地質図（一部省略）



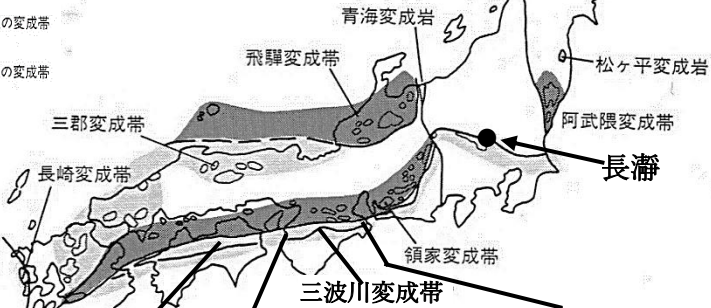


群馬県藤岡市三波川
(利根川水系)
川の岸边にあるが
三波川変成岩類
(三波川変成帯の
模式地)



日本列島の変成岩帯の分布

■ 低圧型の変成帯
■ 高圧型の変成帯



四国 吉野川中流
大歩危 小歩危



和歌山県西端



近くに伊勢神宮

武甲山の石灰岩はサンゴ礁の堆積であるが基底には玄武岩がある。海底火山の上にサンゴ礁ができたので、約2億年前の出来ごとである。



秩父セメント工場



武甲山の石灰岩の山 セメント工場で削り取った。

1. 日本の地質3『関東地方』共立出版株式会社
2. 『日本列島の生い立ちを読む』斎藤靖二著 岩波書店
3. 図解雑学『鉱物・宝石の不思議』近山 晶監修ナツメ社